

矢作川流域圏懇談会「第7回山部会WG」（恵那）開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成24年11月17日(土)
13:00～14:30

(懇親会は前日18:00～開催)

○開催場所：

【集合】こしざわコテージ

【WG会場】上矢作農業集落センター

○参加者：22名（懇親会）

16名（WG）

(2)内容

【プログラム】

1. 懇親会（16日開催）
2. 山部会WG（17日開催）
 - (1) 今年度の到達目標と第8回WGまでの到達目標について
 - (2) 来年度以降の活動について
 - (3) 川部会、海部会との連携について



WG風景（1）



WG風景（2）



WG風景（3）

2. 主な会議内容

第7回地域部会WGでは、16日に懇親会を行い、17日に今年度の到達目標や今後の進め方についての意見交換を行った。WGで話し合われた内容は以下のとおりである。

- 今年度の到達点としては以下のように決定した。
 - 山村再生担い手事例集は、第8回WGにてメンバーを決めるということ、それまでに骨子を作成する。
 - Iターンミーティングは、若者ミーティングに名称変更し、12月中に第1回を開催する。
 - 森づくりガイドラインは、第8回WGまでに検討メンバーの呼びかけをできるような骨子を作成し、3月末までに組織づくりを目指す。
 - 木づかいガイドラインは、第8回WGまでに4つの森林組合が集まって意見交換を行うこと、各県の木づかいの取り組みについて情報収集する。
- 来年度以降の取り組み体制については、これまでの山部会WGの間に個別作業WGを開催し、その内容を必ず山部会WGで報告、意見の反映を行う体制にする。開催頻度は、概ね山部会WG、個別作業WGを各2ヶ月の頻度（なんらかの会議が1ヶ月に1回）開催することとした。
- 川部会、海部会との連携は、まずはお互いことを知らないことが問題であり、その解決が必要であることを確認した。会議運営においても山川海の間が集まってグループワークすることもいいのではといった提案があった。また、具体的な連携のあり方は、引き続き第8回WGの中で検討することを確認した。

3. 山部会WG概要

(1) 今年度の到達目標と第8回WGまでの到達目標について

昨日、地域部会にて議論した内容を踏まえ、山村再生担い手づくり事例集、Iターン（若者）ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインの到達目標について意見交換を行った。



会議風景

意見交換（ ・ ご意見、提案 ▶ 回答 ）

○山村再生担い手事例集について

- ・ 山村再生担い手づくり事例集については、検討メンバーをまず決めようということ昨日の地域部会で話し合ったが、その後メンバーは決まったか。（蔵治）
 - ▶ 根羽村については、南木氏に決まった。恵那市及び岡崎市については、今後調整したい。（洲崎）
- ・ 次回の第8回WGには、メンバーを決めるということ、骨子を作成するというでいいか。（蔵治）
 - ▶ 了解（洲崎）
- ・ Iターンミーティングについては、4つの森林組合の窓口は決まったということ、12月中には第1回ミーティングを行うということ丹羽副座長から聞いている。（蔵治）
- ・ 名称については、地域部会でも話題になったが、若手林業作業者ミーティングではどうか。（今村）
 - ▶ そうすると林業についての議論になってしまいそうなので、もっと広げた名前の方がいい。（洲崎）
- ・ 流域圏若者ミーティングというのはいかがか。また、仮称にしておいて、第1回ミーティングで決めるという手もある。（蔵治）
- ・ （仮称）若者ミーティングにしたいと思うがどうか。（洲崎）
 - ▶ 了解（全員）

○森づくりガイドラインについて

- ・ 森づくりガイドラインについては、骨子を地域部会で説明したので、骨子についていろいろ意見をもらい修正をしていきたい。また、市町村の林務担当者や県の担当にも最初から関わってほしいと考えている。その上で、どこかのタイミングで委員会を立ち上げてスタートすることを考えている。（蔵治）
- ・ 今年度中に検討メンバーを確定したいと思うが、交渉にあたって事務局の協力は可能か。（蔵治）
 - ▶ 内容について、もう少し詳細に詰めてからであればいい。（溝口）
- ・ 検討組織は、ワーキングのようなイメージでよいか。（溝口）
 - ▶ よい。（蔵治）
- ・ 骨子作成にあたっては、今後の大まかな検討スケジュールも入れてほしい。また、メンバ

一についてはどのような組織から選定する予定か。(溝口)

- ▶ 流域圏懇談会メンバーのうち、山部会に○をつけている団体から選ぶことを考えている。例えば、林野庁、3県(岐阜、長野、愛知)、4つの市町村(恵那、根羽、豊田、岡崎)を中心に声かけをしたいと思う。(蔵治)
- ・ 第8回WGでは、メンバーの呼びかけをできるように骨子を修正したい。また、3月末までには組織づくりをめざしたい。エコネットあじょうについては、次回WGにて話を聞くことができるように声かけしたい。(蔵治)
 - ▶ 事務局でも声かけしたい。(溝口)

○木づかいガイドラインについて

- ・ 木づかいガイドラインについては、地域部会で頂いた意見をもとに内容を修正したい。まずは、次回WGまでに4つの森林組合で集まって意見交換をしたい。また、各県の木づかいの取り組み内容についても把握するとともに、各県の木材部門の担当にあたってみたい。(今村)
- ・ 話の中では市民の話がでていないが。(蔵治)
 - ▶ 個人的には長野県の林務部や林業総合センターなども引っ張りこみたい。この中で水に関わるキーパーソンは、森づくりガイドラインへの情報提供もできる。(今村)
- ・ これらの検討内容については、常にワーキングで報告するので、そこで意見交換することでみなさんの意見も反映できると思う。(蔵治)
- ・ 今後の予定としては、第8回WGを1月11,12日に、座長副座長調整会議・市民企画会議合同会議を1月22日に、全体会議を2月18日に開催するので参加してほしい。(蔵治)
- ・ 12月11日には海の勉強会も行うので、こちらも参加してほしい。(溝口)

(2) 来年度以降の活動について

来年度以降の活動について、昨日、地域部会にて議論した内容を踏まえ意見交換を行った。

意見交換(・ご意見、提案 ▶ 回答)

- ・ 今後、今年度と同じスタイルで年8回くらいWGを宿泊とするのか。地域で持ち回りとするのかなどのような形で行うのがいいのか意見を頂きたい。(蔵治)
 - ▶ 毎回宿泊で行うのは大変なので、3ヶ月に1回位宿泊ありの会合を持つのはどうか。そして必要に応じ、間に宿泊なしの会合をはさむようにしたらどうか。(洲崎)
- ・ 全体の話は4箇所くらいで泊まりでということだが、例えば、山村再生担い手づくり事例集はどのくらいの頻度で行うイメージか。(溝口)
 - ▶ 丹羽さんが行った流域再生調査の実態を参考に決めたいと思う。(洲崎)
- ・ 流域再生調査は、月1回というようなペースではなく、3ヶ月に1回くらいではなかったか。(松井)



会議風景

- ▶ 機動にのればそれくらいでもいいと思うが、初めは何回かかためて行ってもいいと思う。(洲崎)
- 例えば、木づかいガイドラインも3ヶ月に1回程度となると、何かしら1ヶ月に1回は会議になってしまうような感じがする。(溝口)
 - ▶ そんなイメージではないかと思う。(洲崎)
- その辺の話は、各グループの意向を踏まえて、次回WGの中で示すことができればいいと思う。(蔵治)
- 今話を聞いて、市民がどのように関わっていけばいいのか。例えば、担い手づくり事例集は地域別になると別の地域の市民は関わりようがないと思う。森づくりガイドラインも実効性を考えると行政の会議という発想がでてくる。自分が考えていた森づくりガイドラインは、120万人の流域圏市民のうち、矢作川源流の森はこうあるべきと思っている人がガイドラインづくりに集まればよく、すべての行政から人をピックアップする必要はないと思う。(黒田)
- 12月の市民会議では、市民がこれからどのように関わったらいいのかを話し合ってみたいと思う。(黒田)
- 市民がモチベーションを高めながら関われる形でなければ、今年1年の努力がどうになってしまうの难道かと感じた。何人かの専門職が集まって決めていくということになっていけば市民たちの疎外感は強まると思う。(黒田)
 - ▶ ここに参加されている市民は、モチベーションの高い市民であり、その時点で一般的な市民とは違うと思う。また、矢作川流域の社会を変えるための手段として森づくりガイドラインの作成に賛同してもらえる市民がいれば是非一緒にやっていきたい。そのため、ここに参加されている市民の人はこれまで通り参画をお願いしたい。(蔵治)
- 木づかいガイドラインについては、最初のとっかかりとして森林組合だけで考えていこうと思っているが、その中に市民が入ってくるのはいいので、みんなで一緒につくりながら、人の輪をつくっていくようなイメージを持っている。(今村)
- 山村再生担い手づくり事例集では、山部会WGの参加者にインタビューを聞いてもらったり、インタビューを行う人の選び方などを相談するために是非とも積極的に入ってほしい。木づかいガイドラインについても、普通の人気が軽に木に触れたり、流域の木の良さを知るきっかけを、どう作ったらいいかという部分に市民が参加していけるのではないかと。(洲崎)
 - ▶ 木づかいに関して言えば、木育には豊田森林学校に関わってもらえるといいと思う。また、今回提案した内容のうち、ここの部分がしたいといってもらえるとありがたい。(今村)
- 北海道では、NPOが村から森林を借り受けて、木育とか森林レクリエーションとかそんな活動を行っている。そんな関わり方もあるのではないかと。(城田)
- 黒田さんの発言は、私たちの提案した会議が市民立場からすると、ハードルが高く参加しづらい仕組みになっているということか。また、今年1年のWGスタイルであれば、1つの会議ですべて把握できるが、会議が分かれてしまうと全部に出るわけにはいかないと思う。さらに、行政が多数を占めている会議で意見を言い続けることは市民にとって極めて

ハードルが高い。その中でどうすればいいかを提案してほしい。(蔵治)

- ・ 事務局にお願いしたいのは、情報をリアルタイムに発信してほしい。そのためにフェースブックを活用したらどうか。リアルタイムに情報を共有することが参画の大前提だと思う。(黒田)
- ・ フェースブックは、行政ではつなげない。今のメーリングリストでは駄目なのか。(溝口)
 - ▶ 外部への情報発信が弱いのではないか。(黒田)
- ・ 外部へは、誰でも見られるように HP を用意している。ただし、情報発信はもう少し強化しないとイケないと思う。また、市民がどう関わるかについては、ガイドラインをつくるメンバーは、これが本当の作業部会であるが、たたき台をつくるだけで必ず、部会で議論し、了解をとっていくものだと思う。そのような作業部会に市民が入っていくのはいいことだと思う。(溝口)
 - ▶ 入っても良いという言われ方は市民は好きではない。好きで何かをしている人とそれを仕事にしている人が一緒になるのは簡単ではなく、市民の参画が必要と言われないと市民は入ってイケない。(黒田)
- ・ 流域圏懇談会に参画することを職業にしている人はいない。みんな忙しい中で参加している。(蔵治)
 - ▶ 職業にしているというのではないが、例えば、森林組合で仕事をしている人と市民はちょっと違うと思う。(黒田)
- ・ 市民の参画が策定に必要なものと当たり前のように思っていたが、そうではないという受け止め方は意外だった。(洲崎)
 - ▶ 事例集の作成にあたり、インタビューをしたり、知恵を貸したりということは部分的参画であり、全部を決めていく参画とはちがう。(黒田)
 - ▶ 木づかいガイドラインについては、専門家ではなくても参画してほしいと考えている。最初とりあえず森林組合で始めてしまうとなんとなく市民が口出しできないような気がする。(黒田)
- ・ 森林組合を集めてという話は、市民も参画して決めた骨子に対して、技術的な肉付けを行うというイメージだと理解しているが、肉付けの作業も含めて参画したいのはいいと思う。ただし、骨子の肉付けに、全部の市民に参画してもらわなければ困るというのは逆に市民にとってあまりに大変ではないかと思う。このようなことを続けたら作業が進まないと思う。(蔵治)
 - ▶ 今はスタートだといっているのでスタートするのはいいが、私たちが積極的に関わられるような形になればいいと思う。(黒田)
- ・ 提案として、ブレイクダウンした小さいワーキングは、メインのワーキングの頻度を超えないようにする。メインのワーキングの間に小さいワーキングを行って、それを必ずメインのワーキングで報告して意見を頂いた上で、小さなワーキングをするという原則をつくらばいいと思う。(蔵治)
- ・ 木づかいガイドラインについては、当面、森林組合で検討してこうというところが、市民の関わりが見えないところだと思う。(溝口)
 - ▶ とりあえず森林組合のメンバーの中でたたき台を 1 回つくって、それから、みんな入

ってきてもらえばいいと思う。(今村)

- ・ 全てにおいて排除の論理はとらないわけなので、やりたい方は是非一緒にやりたいということになると思う。(蔵治)
- ・ 山部会のコアメンバーの方は必ずどこかのワーキングには中心メンバーとして入って、実際に進めていくための原動力になってほしい。また、地域部会で提案した作成方針はたたき台なので、こういう格好にしたらもっと市民が入りやすいとか具体的な提案として出してもらえればありがたい。(洲崎)
- ・ テーマ毎にブレイクダウンしたら、自分もすべては参加できないが、それは信頼して任せるということではないか。信頼関係がないから全部に参加しないと気がすまないというのは若干、違和感を感じる。同時並行で行うのが駄目であれば、順番を決めて1つずつやっていくしかないと思う。(蔵治)
 - 時間はかかるがそれでもいいと思う。(洲崎)
- ・ とにかくスタートして、蔵治さんが提案した内容でやってみようと思う。大小両方とも頻度は2ヶ月に1回位で、毎月大小、大小という感じで行われていくということで。(黒田)
- ・ それでは、来年はそのような形で行いたいと思う。(蔵治)

(3) 川部会、海部会との連携について

今後の川部会、海部会との連携について意見交換を行った。

意見交換 (・ ご意見、提案 ➤ 回答)

- ・ 川・海の連携について、川とか海の話の聞いていると山にはこうして欲しいというような要望があるように聞こえてくるのでその辺を情報提供してほしい。(蔵治)
 - 川は土砂の問題が一番で、海も干潟再生のために土砂は流してほしいが、細かいものはいらぬということがある。また、川はその先に山地域の溪流を魚で行き来するためにダムの問題がある。海は、ごみと流木の調査という話も出ている。もう一つ、都市部の方は山が健全でないことは知っているが、何が健全でないのかは分かっていないので、そこで山が何を欲しているかを返してあげることも必要だと思う。(溝口)
- ・ 海の側から言うと、もっと山の方が会議の場にきて、山の意見を言ってほしいと思う。お互いに分かっていないので空回りをしているのではないかと。(高橋)
 - 海の方も山に来てもらわないといけないと思う。(溝口)
- ・ 例えば、山と海で交流を行っているような活動はあるか。(溝口)
 - 根羽では潮干狩りに行ったり、安城市や刈谷市の学校が間伐体験にきている。(今村)
- ・ 東幡豆漁協の方は、山から流れてくる流木をなんとかしてほしいと思っている。例えば、海部会と山部会で一緒に山を見に行くことができれば、話し合いの中でごみ問題の一部が解決するのではないかと。(松井)
 - 流木はちょっと難しそう。土砂に関しては森づくりガイドラインに盛り込めるのではないかと。例えば、川のための土砂や海のための土砂を位置づけて、矢作川流域の森の中でここは土砂を流出させない方がいい場所、ここは逆に若干の土砂の流出はむしろ歓迎されるような場所を、ある程度特定できるのではないかと。そういう

連携は図れると思う。(蔵治)

- ・ 矢作川では、流木はダムで止まってしまうことを海の方は知らなかったり、川の中の河畔林が多く流されることを知らないと思う。(高橋)
- ・ 山で検討しているガイドラインをどんな形で川や海に提案していくのかをもう少し明確にした方がいいと思う。(溝口)
 - ▶ 木づかいガイドラインの中では、川や海を良くするために、川・海の工事とかいろいろな構造物に木を使っていくということが、実は川を良くすることに繋がることがあるのではないか。(蔵治)
- ・ お互いにもっと分かりあえれば良いと思う。(高橋)
 - ▶ 安城とか刈谷とかでシンポジウムをやれば良いと思う。そこで山の実態を勉強する。(蔵治)
- ・ 本当に実態は知らない。(高橋)
- ・ まだ、連携のスタートラインに立つ前の課題として、コミュニケーションが出来ていないということが、海、川との連携の課題だと思う。(蔵治)
 - ▶ 年に1回は海からも山からも全部集まって話ができれば良いと思う。(高橋)
- ・ 全体会議もグループディスカッションにして、山何人、川何人、海何人みたいな小グループでグループのディスカッションをするということも有効ではないか。(蔵治)
 - ▶ ワークショップ形式は良いと思う。(松井)
- ・ 現時点では、これくらいの議論としたい。(蔵治)
 - ▶ 次回のワーキングでは一定にかためてほしい。(溝口)
- ・ お互いのことを知らないなので、まずは、12月の海の部会WG、勉強会、川の地域部会については参加したい。(黒田)
- ・ 1月のワーキングではたたき台をつくって議論したい。(蔵治)

以上